

復興事前準備への活用

～被害状況イメージの共有～



東京都 葛飾区
都市整備部 調整課



復興事前準備の取組みについて

災害発生時を想定し、復興に資するソフト的対策を事前に準備

復興事前準備の取組内容について

出典：国土交通省 都市局 復興まちづくりのための事前準備ガイドライン

体制 復興体制の事前検討

復興まちづくりにおいて、どのような体制で、どの部署が主体となって進めていくかを明確に決めておきます。

手順 復興手順の事前検討

どのような対応が、どのような時期に生じるのかを把握、整理し、どのような手順で実施していくかを決めておきます。

訓練 復興訓練の実施

職員が復興まちづくりへの理解と知識を得るための、復興訓練を実施します。

基礎データ 基礎データの事前整理、分析

どのような基礎データがあるのかを確認し、まちの課題を分析しておきます。不足データの追加・充実、継続的な更新等、基礎データを整備しておきます。

目標 復興における目標等の事前検討

市町村での被害想定とまちの課題をもとに、被災後の復興まちづくりの目標と実施方針を検討しておきます。

○葛飾区のこれまでの取組み

- ・葛飾区震災復興マニュアル(都市・住宅編)(平成20年6月) ⇒令和2年度改定予定
- ・震災復興まちづくり模擬訓練 平成30年度までに区内6地区で実施 ⇒令和2年度実施予定
- ・葛飾区都市計画マスタープラン(平成23年7月) 策定当時、「震災復興まちづくりの方針」を追加

復興事前準備にあたっては、復興についての認識や被害状況イメージを共有する必要

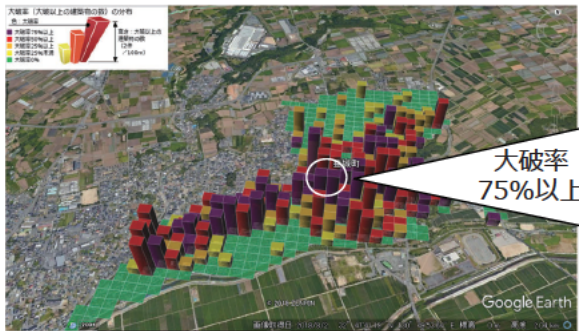


都市構造可視化を、復興に係る共通認識を持つためのツールとして活用できる可能性

葛飾区震災復興マニュアル改定での活用①

庁内検討会において、復興事前準備の重要性を確認

- ・防災や避難についてはイメージしやすいが、復興について触れる機会が少ない
- ・被災地への派遣により災害の初期対応は経験した職員も多いが、復興経験者は少ない
⇒まずは、復興についての認識を持つ



熊本地震(平成28年4月)における益城町の建物の倒壊件数および倒壊率の状況
(都市構造可視化計画ウェブサイトより)

都市・住宅の復興には時間を要する

1日でも早い都市復興の実現には、復興事前準備が重要



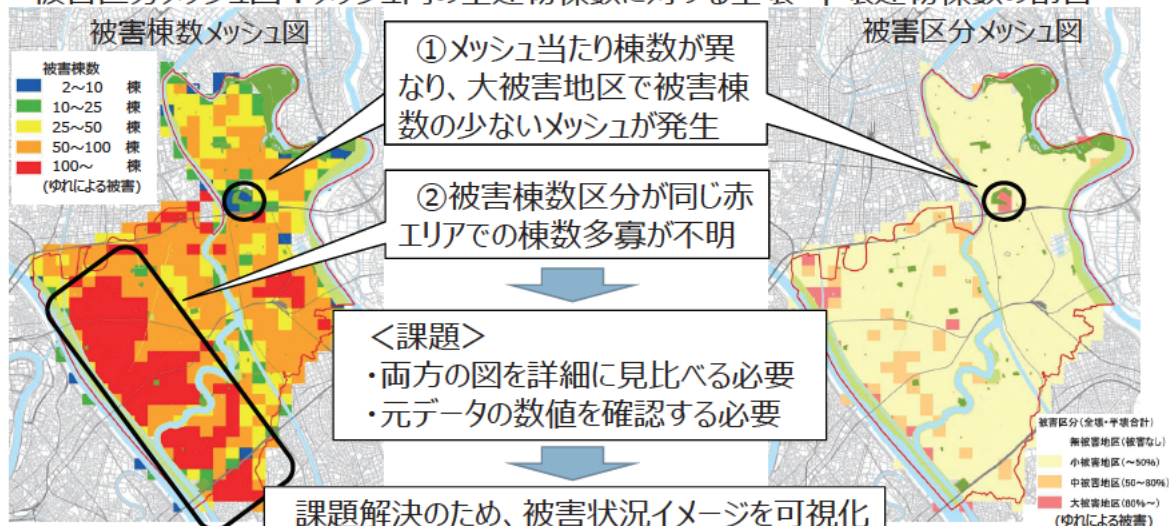
発災後、約2年以上経過後の状況

葛飾区震災復興マニュアル改定での活用②

庁内検討会において、被害状況イメージを共有

被害状況について共通認識を持つため、250mメッシュにより被害状況イメージを作成

- ・被害棟数メッシュ図：メッシュ当たりの全壊・半壊建物の合計棟数
- ・被害区分メッシュ図：メッシュ内の全建物棟数に対する全壊・半壊建物棟数の割合



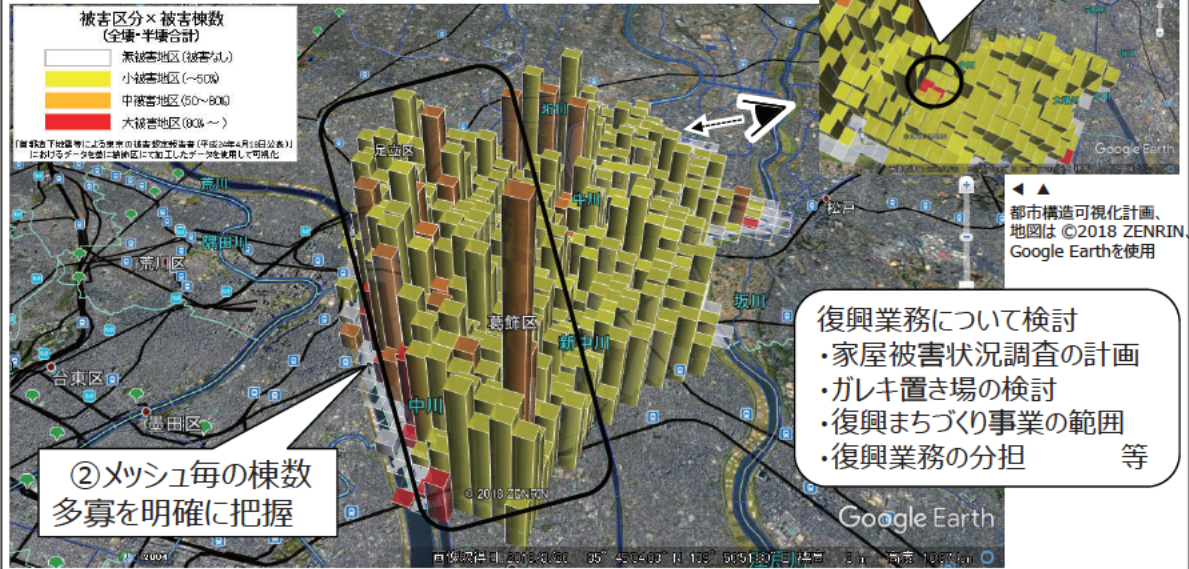
首都直下地震等による東京の被害想定報告書(平成24年4月18日公表)におけるデータを基に・飾区にて加工

葛飾区震災復興マニュアル改定での活用②

被害状況イメージの可視化から、復興業務について検討

複数の図表やデータ数値を確認することなく、一見してメッシュ毎の被害割合とボリュームを把握

- ・早期に対応すべき被害エリアの把握や必要な対応を検討



葛飾区震災復興マニュアル改定での活用③

大被害メッシュを抽出し、地区特性に応じた復興イメージを共有

大被害メッシュを抽出し、まちの様子及び被害状況イメージと地区特性を確認。

- ・基盤整備状況などの地区特性に応じた復興イメージを共有
- ・復興まちづくり事業など整備の方向性を事前に検討

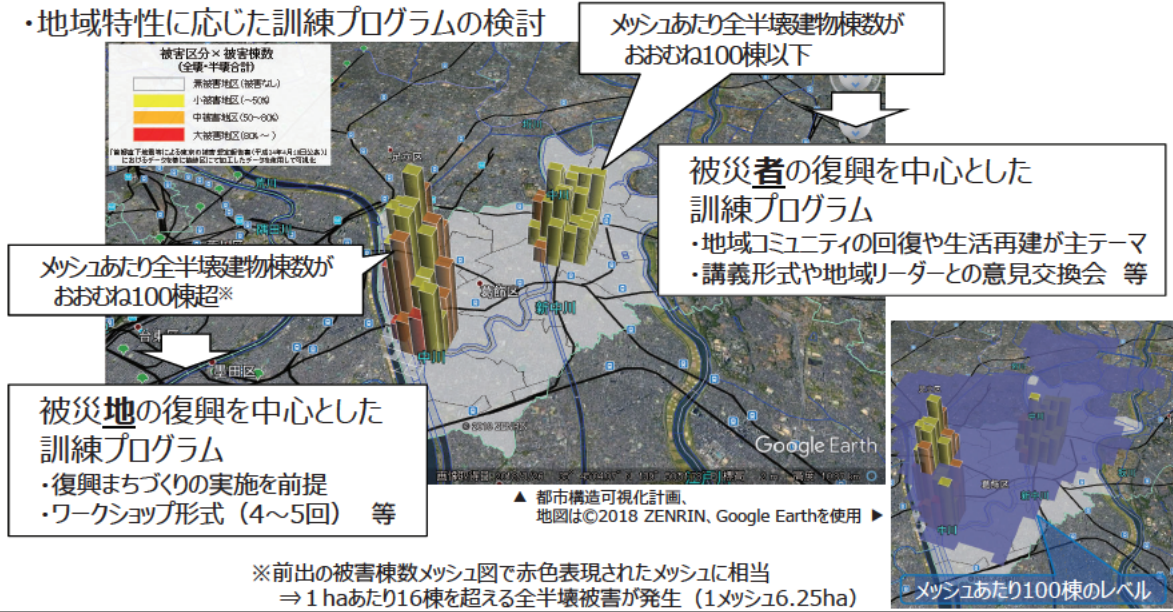


今後の活用可能性

街づくりの単位ごとに被害状況を比較

街づくりの単位となり得る自治町会連合会の地区区分ごとに被害状況を比較

- ・身近なまちの被害状況イメージを共有
- ・地域特性に応じた訓練プログラムの検討



『安心して住み憩い働き続けられる 川の手・人情都市かつしか』

安心して住み憩い働き続けられる
川の手・人情都市
かつしか
葛飾区都市計画マスタープラン
(葛飾区都市計画に関する基本的な方針)

柴又帝釈天

亀有駅前の両さん像

堀切菖蒲園